

小笠原小学校は**母校**です。

# 教員あるある

教員にしてみると「それってある！」ということ  
思い当たることを順不同で



## 自分の子どもをうまく教えられない。

- 教員の子どもは「お父さん（お母さん）が先生だから家で勉強を教えてもらえていいね」などと言われたことがあるだろう。
- ・でも、ほとんどの教員は、自分の子どもに家で教えていないはず…。それは、担任の先生に遠慮してのこと？
- ・本当の理由は、そうではない。誰しも教えようとしたことはあるはずだが、我が子には、担任している子どもに指導するように冷静に教えられず、感情が高ぶってしまう。我が子が思うようにできないと  
親：できなくてもいいのか！ → 子：できなくてもいいもん!! → 親：じゃあ勝手にしろ!!!  
と、かなりの確率で親子げんかに発展してしまう。

## 自分の子どもの名前を付けるのに苦勞する。

- いろんな名前の子と出会っているために、我が子の名前を付けるときに「この名前は前に受け持った子どもと一緒にになってしまう…」  
「この漢字はあの子と一緒にだ…」と、名前が浮かんでも、以前に出会ったその名前の子の顔が浮かんでくる。

男の子		女の子	
順位	名前	順位	名前
1位	蓮	1位	凜
2位	陽翔	2位	陽葵
	新	3位	結愛、杏

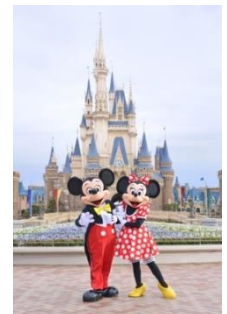
データ出典：明治生命

## 自分の子どもと行事が重なる。

- 運動会や卒業式などが、自分の子どもの学校の行事と自分の勤める学校の行事が重なって行けない。
- 夫婦で教員の場合、お互い別の学校で6年生の担任になり、修学旅行の日が重なったという話もある。
- ・その教員夫婦の子は両親がいない3日間を過ごす…。

## 意外なところで子どもと会う。

- スーパーマーケットやホームセンター、ショッピングモールなどで、学校の子どもたち、過去に教えた子と出会う。高速道路のサービスエリアや県外の観光地などで声を掛けられることもある。
- ・山梨県民の日にディズニーランドへ行って何人も出会ったことがある。
- ・記憶の中で一番遠い場所といえば…、野沢温泉で教え子に声を掛けられたことがある。
- ・酒場で保護者に会うこともときどきある。



## 大人になった教え子と出会う

- 教員を長くやればやるほど、教え子にも出会う機会が増える。
- ・いろんな店でアルバイトをしている教え子に出会う
- ・その子が就職した先が学校に関わる会社で、その業者として学校で出会う
- ・保護者として出会う … etc
- 交通事故で110番通報したときに、やってきた警察官がなんと！ 教え子だった…。
- 教えた子に再会したとき、キビシイのは「先生、私が誰だかわかりますか？」という質問。子どものころのまま大人になっていて、一発でわかる場合もあるが、特に、女の子はわかりづらい。まして、その親は…。
- ・ありがたいのは「先生、<sup>名前</sup>〇〇です。覚えていますか？」と名乗ってくれる言い方、親であれば「□□小学校で担任してもらった〇〇の母です。」といった言い方。これならば100%わかる。